

目次

口絵

刊行のことば

緒言

例言

長野市長 塚田 佐

第一章 長野における明治維新……………一

第一節 松代藩・善光寺領から長野県へ……………二

一 東山道軍をめぐる動きと松代藩……………二

偽官軍事件と北信濃 東山道軍と松代藩

二 松代藩の飯山・北越への出兵……………九

飯山の戦い 北越への出兵 北信濃の民衆と戊辰戦争

三 伊那県・中野県の設置と版籍奉還……………二七

伊那県の設置と松代藩の版籍奉還 信濃県藩連合と松代藩 中野県設置と中之条局の廃止

四 松代・中野騒動と長野県の誕生……………四一

松代・中野騒動と民衆 松代藩の終焉と長野県の誕生

五 教育と宗教をめぐる動き……………五

郷学校の設置と日新館 神仏分離政策と国学者・神道の動向 善光寺と神仏分離

第二節 新しい行政区画と町村……………六九

一 戸籍区の設置と長野……………六九

戸籍の編成 区長・戸長の任命

二 大区・小区制の実施……………七九

大区・小区制の編成 大区会・小区会と民衆 警察・司法制度のはじまり

三 大区・小区制下の町村……………七九

長野町の成立と町村合併 村共同体の営み 民費と町村財政

第三節 地租改正と松代藩の秩禄処分……………九三

一 地租改正と税負担……………九三

壬申地券調べと地租改正 改正事業と農民 官有地の引き戻し運動 地租と農業経営

二 松代藩の秩禄処分と士族授産……………一〇四

松代藩の禄制改革 秩禄処分 士族の生活と士族授産

第四節 身分制の解体と戸口……………一一三

一 北信濃における身分制の解体……………一三

四民平等と松代藩　　えた・ひにん等廃止令

二 徴兵令と西南戦争……………一八

徴兵令と民衆　　西南戦争

第五節 産業と社会生活の変貌……………一六

一 街道・宿駅の変化と産業・用水……………一六

街道の整備　　宿駅の廃止と新たな運輸　　農業と諸営業　　長野石油会社の設立

箱清水村と鑪村の瑪瑙堰

二 門前町長野と県庁の移転……………一七

善光寺門前町と長野　　県庁移転と長野町の形成

三 生活の変化と民衆……………一五

人口の動き　　開化と民衆の生活　　公娼制度と鶴賀新地遊郭

第六節 近代文化のさきがけ……………一七

一 新しい文化と学校教育のはじまり……………一七

『長野新報』の創刊　　民間の力で進められた学校設立　　地域性が反映された初期の学校

師範講習所と医員講習所

二 国民の教化とキリスト教の布教 二九三

国民の教化と教導職 神社の社格決定と廃寺・廃堂 長野県中教院の設立と紛争

明治天皇の巡幸と長野 メソジスト教会の布教

第二章 郡編制・戸長役場と町村民 三二

第一節 長野県政の展開と郡の編制 三三

一 県政・県会と長野町 三三

長野県庁機構の拡大と長野町 県会・県会議員と長野町 警察と裁判所

二 上水内・更級・埴科・上高井郡の設置 三三

郡編制の実施 郡の設置と吏員 郡政のはじまり

第二節 戸長役場と連合戸長役場 三七

一 戸長役場の設置と町村 三七

戸長役場の設置 町村会の開設と町村財政

二 連合戸長役場の設置 三六

連合戸長役場の設置

第三節 商工業の勃興と運輸・通信 三六

一	農業と在来工業	二六八
	共進会・勸業会と農業	
	用水堰と水利問題	
	牧畜業と馬市	
	松代の漁業と寒天生産	
	在来産業と清酒生産	
二	地主の成長と農民	二八五
	多様な農業生産と稲作	
	地主の成長	
三	横田英と松代六工社	二九三
	横田英と富岡製糸場	
	器械製糸の導入と六工社	
四	養蚕・製糸業の発展	三〇一
	座繰製糸と農家	
	養蚕農家と蚕種業	
	長野県製糸場の設置と払い下げ	
五	商業・金融と交通・通信	三二一
	長野町の商業	
	銀行の創設と活動	
	中牛馬会社と運送業	
	信越鉄道の建設工事	
	郵便事業と電信施設	
第四節 自由民権運動と町村民 ……………三三〇		
一	自由民権運動と長野	三三〇
	自由民権運動の開始と政社	
	国会開設運動と長野	
	自由党・立憲改進黨の結成と長野	
二	大同団結運動と政社	三四四

政党・政社の活動 大同団結運動と町村民

第五節 町村民の生活と災害……………三五六

一 町村民の生活……………三五六

病氣と伝染病 正午の午砲 大勸進の養育院 民衆生活の取り締まり

二 洪水と防災・消防……………三六六

千曲川・犀川の洪水 水害対策と防災 消防組織のめばえ

第六節 新しい教育制度と文化……………三七四

一 小学校の設立……………三七四

教育令と教則の改正・学務委員の設置 小学校の生徒・教員と校舎

二 中学校の設立と県立学校……………三八三

上水内郡町村立中学校の設立 上水内中学校の管理運営と生徒 県立中学校の創設

県立尋常師範学校と尋常中学校の移転

三 教員集会の発生と信濃教育会の創設……………三九三

教員集会の発生 長野教育談会から長野教育会へ 信濃教育会の創設と長野地域会員

四 民衆と文化……………四〇〇

『小学新誌』の発刊 民衆と芸能 町村誌の編さん 松代青年会の活動

五 寺院・神社の動き……………四二

皇典講究所の開設 寺院の動向 教派神道と在家仏教

第三章 町村制の施行と町村自治……………四九

第一節 町村制の施行と行財政……………四〇

一 長野町の町制施行……………四〇

長野町と新しい町村の誕生 長野町の町会議員と町長選挙

二 町村制下の町村政治……………四八

町会議員・町村長の選挙と町会 町村財政と町村民の負担

区の設置と区長・区会議員の選出

三 日清戦争と町村民……………四三

日清戦争と町村政 警察・司法と町村民

第二節 国会・県会・郡会と政治活動……………四五

一 衆議院議員・県会議員の選挙と町村民……………四五

参政権と衆議院議員の選挙 町村民の政治活動と県会議員の選挙

二 郡制下の郡行政と郡会……………四七

郡制施行と郡行政 郡会・郡参事会と町村民

第三節 勸業政策の浸透と諸産業

四七九

一 農談会と農業・漁業の発展

四七九

農談会と米作

養蚕業と漁業

長野測候所の開設

二 信越線の開通と交通・町並み

四八九

信越線の開通

鉄道開通の影響

駅の設置と町並み

道路・橋梁の整備と交通

三 商工業と庶民金融の発展

五〇一

商品流通と商品取引所の開設

松代製糸業の発展

えびす講と街のにぎわい

第四節 災害と防災・衛生

五二二

一 松代町・長野町の大火と防災

五二二

松代町の大火

長野町の大火

長野町消防組の成立

千曲川・犀川の水害と治水事業

二 長野町の衛生と町村の人口

五三六

町村民の疾病と公立病院の設立

避病院の建設

長野町の飲用水引水計画

町村の人口動態

第五節 小学校令の施行と中等教育

五三六

一 小学校教育の推進

五三六

小学校教育の推進と高等科設置

御真影と教育勅語

教育行財政と日清戦争

二	県立中学校長野支校と町立長野高等女学校	五五七
二	県立中学校長野支校の設置	町立長野高等女学校の設立
三	町村民の文化運動と宗教	五六五
	善光寺と長野	キリスト教と長野
		音楽会と演説会
		文芸雑誌の発行
		宗教婦人会の活動
		五七五
	第四章 長野市制の施行と日露戦争	五七五
第一節	長野市制の施行と町村政治の進展	五七六
一	長野市制の施行と市政	五七六
	市制施行への動きと市制の施行	三級制の市会議員選挙と市会
	市長・参事会員・助役・区長等の選挙と行財政	市庁舎の新築と移転
二	町村政治の進展	五九五
	町村財政の推移	町村会の運営
		住民生活と直結する区の活動
三	市町村民の政治活動	六〇八
	市町村民の参政権拡大	政党活動
		郡制の改正と郡政・市町村民
第二節	日露戦争と市町村民の動向	六三〇

一	日露戦争と市町村民	………	六三〇
二	市町村の財政	市町村民の対応	
三	市町村民の動員と警察・司法	………	六四〇
四	市町村民の動員	警察・司法制度の変化と整備	
第三節	農業の発展と農業団体	………	六五〇
一	農業・林業の発展と農耕馬	………	六五〇
一	農家と養蚕業	りんご栽培の広がり	林業の育成
二	農家と養蚕業	………	農耕馬と軍馬
二	地主経営の進展と農民	………	六六四
一	農家と地主の経営	耕地整理事業のはじまり	
三	農会と産業組合の結成	………	六七一
一	農会の設立と活動	産業組合の設立と運営	松代製糸改良組の組合化
第四節	商工業の発展と長野商業会議所の設立	………	六七九
一	新しい工業と在来工業	………	六七九
一	煉瓦工場と新しい工業のはじまり	長野電燈株式会社の設立	印刷業の発展
二	松代製糸業の優等格生糸と工女	在来工業の諸相	
二	商業・金融・交通業とその振興	………	六九五

長野商業会議所の設立 一府十県連合共進会 旅客と商売 銀行と庶民金融
 吉田駅の設置 篠ノ井線の開通

三 土木・治水事業の進展 七二六

道路の整備事業 架橋とその修繕事業 中小河川の砂防工事

第五節 社会生活の変化と社会問題 七三五

一 社会生活の変化 七三五

人口の変化と人びとの生活 千曲川沿岸地域の地震と災害 千曲川水系の水害 市消防組の組織

病気と衛生 日本赤十字社長野支部病院の設立 電話の設置 市による最初の引水計画

二 社会問題と社会事業 七四六

社会問題の発生と社会運動 社会主義の研究活動 社会事業の開始 鶴賀遊郭と自由廃業の動き

第六節 学校教育の普及と文化活動の進展 七六三

一 小学校教育の普及 七六三

市の発足と小学校教育 保科百助の同和教育 日露戦争と小学校 幼稚園・保育所の設立

二 中等教育の進展 七七二

長野中学校の開校と長野高等女学校 実業補習教育の開始 長野市立商業学校の設立

中野塾と北信英語義塾

三	社会教育の広がり	七六九
	長野婦人会 青年会の成立と活動 信濃図書館と活動写真 幻灯機の普及	
四	学芸・報道と宗教	八〇四
	新聞の競合と多彩な記者 皇太子の行啓 時局史・郷土研究・地域の文芸 宗教の動向	
五	スポーツと登山	八二八
	野球と庭球のはじまり 近代登山のはじまり	
	あとがき	
	近現代史専門部会部員・調査執筆員	
	執筆分担	
	監修者	
	刊行委員	
	編さん準備委員	
	編さん委員	
	調査協力員	
	事務局・編さん室職員	